

【意見等の募集結果】

- ◆案件番号 117
- ◆案件名 関市公立保育所適正化計画(案)
- ◆担当課 子ども家庭課 電話番号:0575-23-8965 (直通)
- ◆意見等の募集期間 令和8年4月15日(水) から 令和8年5月14日(木) まで
- ◆意見等の提出状況

| | | |
|------------|-----------------|------|
| 意見等提出者数 | 120人 | |
| (提出方法別内訳) | ① 書面(直接提出) | 65人 |
| | ② 郵便 | 1人 |
| | ③ ファクシミリ | 1人 |
| | ④ 電子メール | 53人 |
| 意見等の総数 | 201件 | |
| (ご意見等の取扱い) | ① 案を修正するもの | 16件 |
| | ② 既に案に盛り込んでいるもの | 0件 |
| | ③ 今後の参考とするもの | 100件 |
| | ④ 意見として伺ったもの | 85件 |

「関市公立保育所適正化計画(案)」に対しまして、貴重なご意見等をいただき、心より感謝申し上げます。
 なお、ご意見等については、原文を一部要約して掲載しておりますのでご了承ください。みなさまからいただきましたご意見等の趣旨をよく踏まえた上で「関市公立保育所適正化計画」の策定を行い、今後も適切に事業の推進を図ってまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

関市公立保育所適正化計画(案)に対する意見の
概要と市の考え方

令和8年5月

関市 子ども家庭課

様式 4

「関市公立保育所適正化計画（案）」に対していただいたご意見とこれに対する市の考え方

| 番 案 号 件 | 分 割 | 番 意 号 見 | 頁 ・ 行 | 意 見 内 容 | 市 の 考 え 方 |
|------------|--------|------------|-------------------------------|---|---|
| 117 | | 1 | 5 頁 14 行 7 頁 1 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●閉園そのものに反対 ・南ヶ丘保育園・富野保育園の閉園に反対。地域に必要な園なので残してほしい。 ・富野保育園がなくなると地域の子育て環境が失われるので、閉園はやめてほしい。 ・南ヶ丘保育園は自然保育や地域交流の場として大切なので、閉園せず存続してほしい。 ・西部保育園を含めた段階的縮小にも反対で、地域の保育基盤として残してほしい。 ・公立保育園は地域に必要な拠点であり、民間で代替できないので残してほしい。 ・地域に必要な園を、利用率や経費の数字だけで無くしてしまうことには到底納得できない。今ある園を守り、地域の子どもたちがこれまでどおり通える環境を残してほしい。 | <p>閉園については、個々の園の保育の質を否定するものではありません。少子化が進行するなか、今後に限られた人員において市全体の保育の質を確保していくことを踏まえた総合的な判断となります。</p> <p>公立保育園すべてをなくすという考えではありません。市全体の子どもを市全体の公私立保育施設で受け入れていくための見直しとして進めています。</p> <p>公立保育園で実施している自然保育などの特色は、民間保育園でも実施できるよう連携し、本市の児童がどの保育施設に通園していても魅力ある保育を受けることができるよう進めます。</p> |
| | | 2 | 7 頁 10 行 9 頁 1 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●閉園時期の見直し・延期 ・令和9年度末の閉園は早すぎるので、少なくとも在園児が卒園するまで延期してほしい。 ・現在入園している子どもが卒園するまでは閉園しないでほしい。 ・閉園時期が急すぎるため、数年かけた段階的な見直しにしてほしい。 ・富野保育園の閉園は、富野小学校の小規模特認 | <p>閉園方針の説明が今回の時期になったことは、答申の時期との関係によるもので、大変心苦しく思います。保護者の不安や在園児への影響に十分配慮できていなかった点は重く受け止めています。</p> <p>特に、卒園間近の転園が子どもに与える負担を考慮し、富野保育園・南ヶ丘保育園の閉園時期を令和10年度末に見直しします。</p> |

| | | | | | |
|--|--|---|-------------|---|--|
| | | | | <p>校の効果を見てからでも遅くないので延期してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南ヶ丘保育園の閉園は、利用状況や地域の状況を見ながらもっと先にしてほしい。 | <p>児童の集団生活による育ちを重視し、在園児全員が卒園するまでの延長は考えていません。希望する転園調整を行い、転園先で同様の保育を提供します。</p> |
| | | 3 | 5 頁 23 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●市の説明不足・進め方に対して不満 ・入園時に閉園予定が伝わっておらず、説明の順序が逆で納得できない。 ・保護者・地域住民への事前説明が足りず、意見を聞く場も十分でなかった。 ・住民説明会は形式的で、実質的な合意形成になっていない。 ・閉園の話をもっと早く丁寧に知らせるべきだったのでは。 ・こどもへの説明や配慮もなく、進め方が一方的だと感じる。 ・当事者の意見を反映する前に計画が進んでいるため、手続きのあり方を見直してほしい。 ・子ども・子育て会議の構成や意思決定に、地域の意見が不足していると思う。 | <p>保護者説明会や住民説明会を通じてご意見を伺ってまいりましたが、十分に理解が得られていないこと、また、説明時期や内容に配慮が足らなかったと感じております。</p> <p>今後、保護者とは個別面談や再度の説明会なども含め、丁寧にご説明し、不安や疑問に添えてまいります。</p> <p>子ども・子育て会議委員は、特定の地域代表という選出はしておりません。特定の地域における保育園の維持という観点ではなく、市全体の児童を公立・私立保育園・幼稚園・認定こども園を含めた市全体の施設で受け入れるためという観点での検討をお願いしております。</p> |
| | | 4 | 5 頁 13 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●保育の質・こどもへの影響への懸念 ・転園による環境変化がこどもの発達や安心感に悪影響を与えるので心配である。 ・少人数でのびのび過ごせる良さがあり、集団規模だけで質を判断してほしくない。 ・自然の中で体を使って遊べる環境は大切で、閉園するとその良さが失われてしまう。 ・年長児の転園は精神的負担が大きいため、発達段階に配慮してほしい。 ・生活や人間関係が安定している今の園を急に変 | <p>今後は、自然保育などの良さを公立保育園のみではなく、私立保育施設でも同様の保育を実施できるよう、人員配置や財政支援により私立保育施設の充実を進めます。</p> <p>転園や閉園に伴うこどもの不安や精神的負担については、園児同士の交流の機会を設けることや、関わりの深い保育士を転園先に配置するなど、環境の変化が最小限となるよう、できる限りの配慮を行ってまいります。</p> |

| | | | | | |
|--|--|---|-------------|---|---|
| | | | | <p>えるのは、こどもにとって負担が大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数保育は人間関係が丁寧であり、こどもの成長に合っているのをそれを守ってほしい。 ・こどもたちの発達や安心を犠牲にしてまで閉園を進めないでほしい。今の園で育まれている先生との信頼関係、友達とのつながり、自然の中でのびのび過ごせる環境は、簡単に代えがきかない。転園による不安や混乱がこどもに与える影響をもっと真剣に受け止めてほしい。 | |
| | | 5 | 6 頁 12 行 | <p>●保護者負担の増加への懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転園先探し、送迎距離の増加、仕事との両立など、保護者の負担が大きくなる。 ・近くの園がなくなると、共働き家庭や通勤家庭が特に困る。 ・転園手続きや持ち物の買い替えなど、経済的・時間的負担が大きい。 ・送迎距離が長くなると、毎日の生活が成り立たない家庭が出てくる。 ・低年齢児や障がい児、支援が必要な保護者ほど、急な転園は大変な負担になる。 | <p>新たな負担が生じることは大きな課題だと認識しております。希望する園への転園ができるよう最大限配慮し、公立保育園を希望される場合には希望する公立保育園で受入れをします。</p> <p>6月下旬ごろから富野保育園及び南ヶ丘保育園在園児保護者と個別面談を実施し、不安や負担の早期把握と解消に努め、必要な対応を行います。転園希望園との慣らし保育などの協議・調整を行います。</p> |
| | | 6 | 5 頁 13 行 | <p>●少人数保育を評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数だからこそ一人ひとりに丁寧に関われるので、富野保育園や南ヶ丘保育園の良さを残してほしい。 ・小規模な環境でこそ、こどもが安心して育つので、少人数保育の価値をもっと評価すべきである。 ・ひまわり学園などとの交流や自然環境を活かした保育は、園の魅力として残してほしい。 | <p>小規模園の良さは理解していますが、小規模園として特別に存続・運営することは考えていません。今後は、民間保育施設や発達支援と連携した多様な支援体制を構築していく方針です。</p> <p>少人数の方が自分を発揮できるお子さんがおられることも承知しておりますが、園の規模を問わず、きめ細やかな対応を進めていきます。</p> |

| | | | | | |
|--|--|---|-------------|--|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数だからこそできる丁寧な関わりや、自然の中で心も体ものびのび育つ保育の価値を、もっと正当に評価してほしい。数字や効率では測れない大切な保育がそこにあり、今の公立保育園で長年積み重ねてきた良さを軽く扱わないでほしい。 | |
| | | 7 | 5 頁 23 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●代替案・再検討を求める ・閉園ではなく、縮小運営や機能見直しで存続できる方法を考えてほしい。 ・公立保育園の役割を見直し、医療的ケア児や療育児の受入れ拠点など別の活用策を検討してほしい。 ・保育士配置や定員の見直しで、閉園以外の改善策があるのではないか。 ・小学校の空き教室活用や保育支援員制度など、別の運営方法を検討してほしい。 ・保育園を地域交流・自然保育・インクルーシブ保育の拠点として残す案を検討してほしい。 | <p>少子化の進行を踏まえたうえで、今後も限られた人員において市全体の保育の質を確保していくことを考えた総合的な判断です。</p> <p>公立保育園・民間保育施設がそれぞれの役割を担いながら、持続可能な保育体制を確保していきます。</p> |
| | | 8 | 6 頁 16 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域・定住・少子化対策との整合性の疑問 ・保育園をなくすと子育て世帯の転出が進み、地域の衰退につながる。 ・「子育てしやすい関市」と言いながら園を減らすのは矛盾している。 ・空き家活用や移住促進を進めるなら、地域の保育基盤を残すべきである。 ・少子化対策としては、園の整理ではなく子育て世帯を呼び込む施策が必要である。 ・地域の魅力を保つためにも、保育園は地域インフラとして残すべきである。 | <p>地域の子育て環境や定住促進は重要な視点であり、ご懸念は十分理解しております。</p> <p>市全体のこどもを市全体の施設で受け止める体制を整えることが、将来的に安定した保育の確保につながるものと考えております。</p> <p>また、地域の魅力づくりは、施設そのものではなく、そこに関わる人々の思いや関心の高さが重要であるとと考えております。</p> |

| | | | | | |
|--|--|----|-------------|--|--|
| | | 9 | 6 頁 16 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●小規模特認校との連携・一体的な地域づくり ・富野小の小規模特認校化と保育園閉園は矛盾するので、園と学校を一体で考えるべきである。 ・園と小学校の自然な連携が地域の魅力であり、閉園で断ち切らないでほしい。 ・保育園は小規模特認校の土台になるので、学校改革と合わせて残してほしい。 ・園と学校をつないだ地域教育の流れを活かすべきで、閉園は早すぎる。 ・地域の教育資源をつないで、保育園・小学校・地域の一体的なまちづくりをしてほしい。 | <p>小規模特認校制度は、学校教育の仕組みで、保育は未就学児の発達段階に応じた保育(遊び、言語刺激、身体活動、生活習慣の形成など発達を支える環境の確保)を目的としており、目的が異なると考えます。</p> <p>保育所適正化方針は、集団生活によるこどもの育ちを最優先に考え、今後も質の高い保育を市全体で継続するためのものです。</p> |
| | | 10 | 5 頁 13 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●開所時間・利便性の改善要望 ・朝 7 時 30 分開始では共働き家庭に短く、もっと早朝や延長の対応がほしい。 ・利用しやすい園にするには、開所時間を見直すべきである。 ・長時間勤務の家庭でも使えるように、柔軟な預かり体制が必要である。 ・保護者の勤務形態に合うよう、朝夕の受け入れを改善してほしい。 ・利便性を高めれば、地域外からの利用も増えるのではないか。 | <p>この計画では開所時間そのものについては、具体的に示しておりません。</p> <p>今後も、一時保育やこども誰でも通園制度も合わせて、利用者のニーズ把握に努めてまいります。</p> |
| | | 11 | 5 頁 13 行 | <ul style="list-style-type: none"> ●障がい児・医療的ケア児の受入体制整備 ・療育や加配が必要なこどもに対応できる体制を、公立保育園で維持してほしい。 ・医療的ケア児や発達支援が必要なこどもの受入れ先を確保してほしい。 ・民間保育園では受けにくい子どももいるため、公立園をセーフティネットとして残してほしい。 | <p>発達特性や加配が必要なこどもなど、支援を必要とするこどもたちへの対応は、市として大変重要であると考えています。</p> <p>今後は公私立保育施設において同様の保育体制を構築できるよう、保育士の配置基準の見直しや財政支援を行いながら、必要な支援を継続します。</p> |

| | | | | | |
|--|--|----|-------------|--|---|
| | | | | <p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れ体制や職員研修を整え、障がい児支援の拠点にしてほしい。 | |
| | | 12 | 6 頁 23 行 | <p>●財政面・効果説明の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉園で本当にどれだけ削減できるのか、管理費や人件費を含めて示してほしい。 ・財政効果だけではなく、地域やこどもへの影響も含めて比較してほしい。 ・市費の使い方として、閉園より子育て施策に投資すべきではないか。 ・利用率の数字だけでなく、実質的な受入れ余力や安全性も示してほしい。 ・経費削減の根拠が十分でなく、もっと具体的な説明が必要である。 | <p>閉園の判断は、単に経費を削減するためではなく、児童数の減少や将来の保育需要を見据えた判断です。</p> <p>財政面だけでなく、今後の市全体の保育確保や、民間施設への支援も含めて総合的に判断しています。</p> |
| | | 13 | 6 頁 20 行 | <p>●保育士・職員の処遇や配置への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士不足や非正規比率をどう考えるのか、現場の処遇改善が必要である。 ・閉園後の職員配置や異動、雇用の見通しを明確にしてほしい。 ・現場で長年こどもたちを支えてきた公立保育士の力や経験を失わないでほしい。職員が安心して働き続けられるように配慮してほしい。 ・保育の質を維持するには、職員の定着と働きやすさが重要である。 ・現場の保育士の声をもっと聞いたうえで進めてほしい。 | <p>公立保育園でこれまで培ってきた保育士の経験やノウハウは、市にとって大切な財産です。今後は私立保育園でも一層の保育士配置が進むよう、市独自の配置基準を定め、保育士確保に向けた支援を行ってまいります。</p> <p>転園先でもこどもたちに関わり続けられるよう、関わりの深い保育士の配置などに配慮していきます。</p> |
| | | 14 | 5 頁 13 行 | <p>●保育園の役割・公立保育園の存在意義への再評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園は単なる預かり施設ではなく、地域 | <p>公立保育園の役割や、そこで培われた保育の良さは十分に認識しています。閉園は公立保育園の価値を否定するものではなく、市全体の保育を今後も安定</p> |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| | | | <p>の拠点として残すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 公立保育園の質や信頼感は地域の魅力であり、民間化では代替できない。・ セーフティネット、交流の場、地域資源として公立保育園の意義を見直してほしい。・ 保育園は地域コミュニティを支える公共財産であり、効率だけで判断すべきでない。・ 関市の自然や地域性を活かした保育の核として、公立園を守ってほしい。 | <p>して支えていくための転換と考えています。</p> <p>公立保育園でこれまで積み上げてきた特色ある保育や質の高い保育は、今後、どこの園に在園していても希望する保育を提供できるよう市全体の保育の質の向上につなげていきます。</p> |
|--|--|--|---|---|